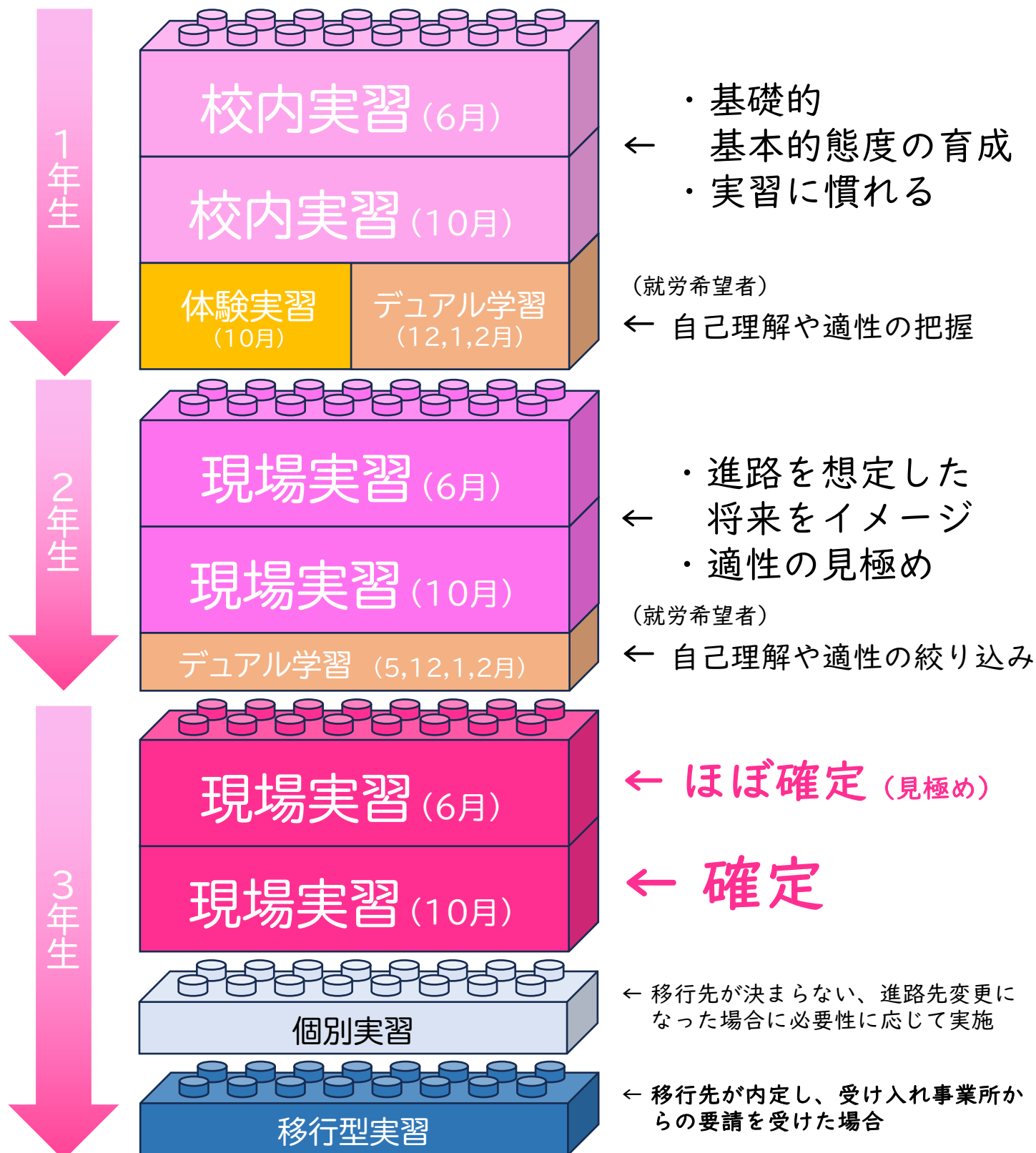


高等部 実習段階イメージ

何事もまずは「やってみよう」という気持ちを大切にしながら、目の前の課題ひとつひとつに向き合って取り組めるよう指導・支援しています。進路の選択決定に向けた学習機会はもちろん、日々の教育活動、日常生活とも関連させながら、高等部として、ブロックをひとつずつ積み重ねるように、将来を見据えた取り組みを行っています。



卒業後の生活



現場学習(産業現場等における実習)

目的

- (1) 福祉施設や職場における生活習慣を知るとともに、労働に対する意識が高まるようにする
- (2) 進路先選択や職場適性発見の手がかりを得るための機会とする(主に2年生段階)
- (3) 福祉施設や職場での適応能力を高め、進路決定につなげることができるようにする

対象生徒

高等部2・3年生生徒(卒業後の生活をイメージして取り組みます)

対象生徒

2週間(受け入れの都合等がある場合、御相談ください)

<令和6年度の予定> 実習期間中の土日は除きます。

第Ⅰ期 6月17日(月)～6月28日(金)

第Ⅱ期 10月21日(月)～11月1日(金)



現場実習を実施する大まかな流れ

実習前

受入依頼

- 本校の進路指導担当が現場実習の受入れのお願いに伺います。
- 期日等が決まりましたら、受入依頼書を持参いたします。

打ち合わせ

- 事前に本人・保護者・本校職員と実習先担当者において、打ち合わせを行い、生徒の実態に応じて内容を決定していきます。
→日時は事前にお電話で調整させていただきます。
- 実習内容や勤務時間等の詳細は、打ち合わせ書に沿って確認をさせていただきます。

事前学習

- 打ち合わせの内容を元に、生徒自身が、担任と一緒に現場実習に取り組む目標の設定をしたり、実習期間中における心得などを学習します。

実習中

実習開始

巡回指導

- 実習期間中、職員が訪問(巡回指導)させていただき、必要に応じて現場での指導支援を行います。
- その際、事後学習用として、写真などを撮らせていただきます(実習先の許可を頂いてから撮影します)。
- 実習中、何かありましたら、学校にご連絡ください。

実習後

評価票の作成

- 実習先の方に、実習生の評価をお願いします。評価票は事前にお渡しさせていただきます。
- 良い点のみならず、今後に向けての改善点や課題点なども教えてください。学校での学習、次回の現場実習の参考にさせていただきます。

事後指導

- 評価票を元に、学校での学習活動の中で課題を設定し、取り組み、改善を図ります。

→ PDCAのサイクルで、生徒自身の課題改善と成長につなげていきます

- ◆ これまでの評価(実習及び学校での学習・生活状況等)をもとに、実習実施の可否を学校と実習先(企業・福祉施設)で協議の上、決定します。希望調査どおり実習ができるとは限りません。
- ◆ 実習先の希望が複数名重複した場合、3年生の希望が優先となります。
- ◆ 希望した企業や福祉施設での実習受け入れが、卒業後の雇用や施設利用に直接つながる保証はないので、複数の実習先を計画的に経験していくことを推奨します。



「デュアルシステム型就業体験学習」とは

○「企業で働きながら学び、そして、学校で振り返りながら学ぶ」システムです。

・企業等への就労を目指し、職場での実践と学校での学習（評価、課題改善）を繰り返し行い、職場適応や働く意欲、態度、技能を養います。

対象者

- ・高等部第2学年就労希望生徒

前年度までの学習の様子を考慮し、生徒や保護者の意向、健康状態、通学の状況、家庭、学校生活の状態を把握し学年会で検討し決定します。

- ・高等部第1学年就労希望生徒

個別面談をとおして、生徒や保護者の意向、健康状態、通学の状況、家庭での様子等を把握するとともに、第1期の校内実習をはじめ、学習の様子や生活の様子等を考慮し、学年会で検討し決定します。

対象者 5月、12月、1月、2月の毎週金曜日に3週に渡って実施（1年生は、5月は参加しない）

実施場所

R5 実績 株式会社 根本（寝具製造）、ウェルシア（ドラッグストア）、三国園（農業）

R6 予定 陣屋（高齢者施設）、DCMホームック（ホームセンター）、協立製作所（金属加工）

デュアルシステム型就業体験学習を実施する大まかな流れ

実施前

受入依頼

- ・本校の進路指導担当が体験学習の受入れのお願いに伺います。
- ・期日等が決まりましたら、受入依頼書を持参いたします。

打ち合わせ

- ・本校の担当者（担任）が対象生徒について説明に伺います。
→事前にお電話でアポイントメントを取らせていただきます。
- ・実習の詳細について打ち合わせ書に沿って内容等の確認をします。

事前学習

生徒各自が、学校での学習を踏まえ、体験学習に取り組む目標の設定をします。

実施期間中

実習開始

繰り返し

事後指導

- ・本校の担当者が引率して指導に当たります。
- ・従業員の方には、生徒への作業指示や作業方法の説明などをお願いします。また、作業終了の報告なども従業員の方に生徒からさせていただきます。

生徒自身の自己評価と引率者の評価を基に、達成できたことや今後の課題について振り返り、学校での学習活動や次回の体験学習に生かします。

学習活動

学校での学習活動の中で課題に取り組み、改善を図ります。
次回の体験実習の目標や課題を決め、次回の体験学習に望みます。

→ PDCAのサイクルで、生徒自身の課題改善と成長につなげていきます

体験実習

○校内で身につけた力を生かし、実際の現場で発揮するとともに、社会での課題を見つけ、次の目標に結びつけることができるようにします。

対象者

- ・高等部第1学年就労希望生徒

個別面談や進路相談をとおして、生徒や保護者の意向、健康状態、通学の状況、家庭での様子等を把握するとともに、第1期の校内実習をはじめ、学習の様子や生活の様子等を考慮し、学年会で検討し決定します

対象者 第Ⅱ期現場・校内実習と同時期に近隣の事業所で1週間ずつ、2カ所で実習を実施